

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

25 (通巻29号)

平成18年9月27日発行

【目次】

- こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【27】
わかりそうで、わからない文学作品名… ……………1
- こんなのあります —いちおしレファレンス・ブッケー— 【18】
『松本清張事典決定版』(郷原宏著 角川学芸出版 2005.4) ……………2
- 市町村のみなさんからの発信 【16】
「図書館にも個室が欲しい！」 東神楽町メモリアルホール 加藤美砂子さん ……………3
- 《寄稿》小さな学校図書館 ～総合学科・清水高校の場合～
北海道清水高等学校 高橋理奈 さん ……………4
- Librarian's Box (ししょぼ) 【15】
統計情報をウェブ・サイトで得る ……………5
- 課員のつぶやき —日々の業務からの短信— 【17】
「メールレファレンスが始まって、机上の野望が膨らむ……」 ……………6
- 《報告》北海道医療大学総合図書館訪問レポート
平紀子事務室長との情報交換を終えて ……………7
- 北海道内図書館の課題 1 「相互貸借」 ……………8
相互貸借について思うこと 恵庭市立図書館 大林泰子 さん
- レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介 (2006年6月～9月分) ……………11
- News ……………12
- 1 札幌市立月寒中学校の三上久代さんが本を出版
- 2 平成18年度第2回道民カレッジ連携講座—能力開発コース—開催
- 3 夏休みの「書庫ツアー」大好評
- 4 第48回北海道図書館大会開催
- 5 ミニ利用講座・開催中!
- 6 市町村図書館職員レファレンス体験研修・開催中!
- 7 国会図書館でレファレンス協同データベース事業新規参加の受付開始
- 8 先生方の研修講座を積極的に受入れ
- 9 「都立図書館改革の具体的方策」公表
- 10 帯広市図書館が広報誌2種を創刊
- 編集後記 ……………14



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス—【27】

わかりそうで、わからない文学作品名…。

市町村から寄せられた文学作品に関するヨミの調査です。

“『二葉亭四迷全集 第10巻』（岩波書店 1953年）に所収されている「酒餘茶間」という作品のヨミが知りたい”という内容でした。文学作品・ヨミということから、当館に所蔵されている書誌や参考図書類、マークの検索などで、解決するだろうと思っていましたが出てきません。全集の個別作品まで、ヨミは完全ではないということであらためて知りました。

依頼してきた図書館でも調べていたのですが、『個人全集・作品名総覧2 日外アソシエーツ（現代日本文学総覧シリーズ5）』のなかで「酒餘茶間」が出ている項は、「主よそは過ぎたり！」と「主よ、われ怖る」の間にあるので「シュヨ」と読むことは推測されますが、「茶間」のヨミはわかりません。「サカン」「チャカン」考えられはしますが、正確にはわかりません。漢和辞典でも確認してみましたが、正確なヨミにはたどりつけませんでした。

二葉亭四迷の作家研究等の文献も見てみましたが、作品名としての記載は多々あるのですが、ルビがなくこの分野からは断念。次にネットで、「酒余（餘）茶間」で検索してみると

いや、人生は気合だね。 — 二葉亭四迷「酒余茶間」

名言として紹介されていました。しかし、肝心のヨミはどこにも出てきません。この作品は短編ですが、名言として言葉が残っているほど有名？なのに。そこで名言集にもルビがないか確認してみましたが、作品名はあってもヨミはありません。まさに「気合」が必要ってということ？文献ではもうお手上げだったので、次に機関にたずねてみることにしました。

そこで、文学関係の機関ならわかるだろうということで、ある機関に照会してみました。回答は、「初出には、「酒余」はシュヨはルビがあったとのことですが、茶間は文中になかった。当館でも調査済みの小学館の国語大辞典に「ちゃのま」とあったとのこと。「チャカン」「サカン」などのヨミはありませんでした」とのこと。機関でも「茶間」のヨミまでは正確にわからないとのことでした。

次に、国立国会図書館へ依頼。思いもつかなかった方法で回答が得られたとのことでした。それは、外国語訳のデータベースで検索後、その結果から文献で確認したという方法でした。索引に「“Shuyo Sakan” (Futabatei Shimei)」とあったとのことです。イメージ的には、逆輸入状態といった感じでしょうか。

下記のサイトでは、外国語に翻訳されている日本文学を検索できます。英語だけでなく翻訳言語も幅広く扱っており、日本文学の翻訳情報を確認することが可能です。

余談ですが、ある市販 MARC の内容細目のヨミでは「シュヨチャカン」となっていました。実際に Web OPAC でヒットしてきた図書館もありました。参考までに MARC からのヨミもひとつの情報としてお伝えしました。今回の場合はいずれも典拠が不明なため、どれが正しいヨミであるということはいえませんでした。

「文学作品」のヨミの調査は、答えを導くまでの過程や調査方法が多くあります。すんなりと文学辞典などにあればよいのですが、今回の場合は文学作品名としての記載はあってもヨミまで記載されたものはなく、とても手間どりました。

このようななかで、国立国会図書館の調査方法は「奥の手」といったところでしょうか。

こんなのあります —いちおしレファレンス・ブックス【18】

『松本清張事典決定版』（郷原宏著 角川学芸出版 2005.4 429p 19cm ¥3,143）

巨匠松本清張は 1992（平成4）年8月に逝去されました。死後十数年をへた今日でも、テレビドラマ化作品が注目を浴びるなど、清張作品の人気は衰えを見せる気配もありません。この間、1998（平成10）年には生まれ故郷の北九州市小倉に松本清張記念館が開館して活発な活動が展開されたり、松本清張を扱う参考図書類が複数発行されるなど、再評価の機運を窺がわせます。

さて今回紹介するのは、決定版と銘打った清張事典。どこがどう決定版なのかを説明するのが本稿の目的です。

郷原宏といえば『詩人の妻—高村智恵子ノート』『立原道造』などの詩人伝で知られていますが、この頃では推理小説物の評論も数多い。その関係からか、本書は今年度の日本推理作家協会賞[評論その他部門]を受賞しています。

実は筆者は若き日に、清張の出版担当編集者であった経歴を持ち、後にミステリー評論家として清張作品に接するにつけ、総合的な作家事典の出現を望んだが叶わず、ならば自分で作ってみようと、十年ほど前から取り組んできたという労作です。

中心は作品事典（小説作品、評論、ノンフィクション、史論等の作品解説。50音順。）、人名事典（清張ゆかりの人物および作品に登場する架空・実在の人物。50音順。）、地名事典（作品の主な舞台。50音順。）における解説です。

後半三分の一ほどに年譜、書誌（50音順）、研究文献一覧（発表年代順）を収めますが、いずれも、下に示した先行業績を参考に編まれたものと考えられます。

松本清張の膨大な作品群に、一人で挑んだ作品解説。最新情報を盛り込み充実した年譜、書誌類という点から、清張作品愛読者向けの手引書としては現時点において、決定版としてよいでしょう。ただ、図書館でのレファレンス用としては、下記①との併用が望ましいと思います。

①松本清張事典 歴史と文学の会編 勉誠出版 1998.6 481,12p 20cm
¥2,800

*第一部 事項篇、第二部 作品篇、松本清張年譜・全作品一覧・松本清張主要文献目録（岩見幸恵編）、索引（第一部、第二部の人名、作品名）あり。

②松本清張書誌 作品目録篇 平井隆一編著 日本図書刊行会 2002.12
251p 27cm ¥7,000

*編著者は、ある地方都市の公務員。松本清張の1ファンが30年を費やして編んだ作品目録。ジャンルの区別なく、発表誌等の発行年月日順の配列としたのが特徴。今後、著書目録、参考文献目録、追悼文献目録等を作成し、最終的に『松本清張書誌』として完成しようとするもの。書名索引なし。

③松本清張書誌研究文献目録 岩見幸恵著 文献目録・諸資料等研究会編 勉誠出版
2004.10 407p 22cm ¥8,800

*著作目録は初出と再録を分けているのが特徴。松本清張に関する参考文献を網羅。ともに発表年月日順に配列する。書名索引なし。

参考：こんなのあります いちおしレファレンスブック 「松本清張事典」 歴史と文学の会 勉誠出版 1998
（『Do-Re』テスト版No.1(2000年10月)）

市町村のみなさんからの発信 【16】

「図書館にも個室が欲しい！」 東神楽町メモリアルホール 加藤 美砂子 さん

「レファレンス」という言葉を聞き、その専門用語の響きと重みを懐かしく感じている。図書館機能を守るために自ら条例廃止した異端者がそれを語るのは少々場違いな気がするが、違うんだよなあと笑いながら読んで頂きたいと思う。

当館での主な調査事項は、観光客向けのおすすめ案内である。町民の方々は遠慮が先立ち、自力で捜査しているようである。もちろん、その様な利用者気質に配慮した資料を揃えてはいるが、それでも降参した時がようやく司書の出番となる。散々調べ尽くした後に勇気を奮って質問するだけに、我々も覚悟を求められる。もっと早く聞いてくれれば良かったのと思うときもあるが、ほとんどが紆余曲折しながらも相手が納得する回答まで辿り着くことが多い。このような状況では、相手の心の動きを的確に掴むことが大事となり、司書のコミュニケーションスキルが試されてしまう。

そんな恥らいを忘れない利用者でも顔を見るなり、気軽に問いかけてくれる事がある。それは、欲しい資料がはっきりしている場合である。間髪入れずに提供できれば良いが、時間を必要としたり、かつ、「見つかりません」という最悪の事態を伝えなければならない時もある。少しでもお待たせしてしまう調査事項に対して、最近では、良くない結果を最も早く、そして賭けてみる価値がある方法を利用者へ提示していくという手法を使うようになった。職人氣質な一昔前のレファレンス対応と180度変わったのは、情報を選択するのは依頼者であるということに私自身がようやく気が付いたからである。

もちろん、「今すぐ答えを教えて！」という応急手当を求めるケースでは、禁じ手とは了解しつつも、きっちりと応えることもよくある。古典的なやり方が有効なのも事実である。

リピーター町民の方々は世間話から始まるレファレンスも多い。会話をする事によって導き出される解決方法もある。極端な例では、偶然会った利用者同士が話し合っ解決してしまうことだ。問題解決、この図書館の新しい機能はわが町ではこのように実践されている。

これらが日常的に行われると、館内に話し声が絶えないという副作用が付いてきた。静けさを提供する場であるはずなのに、その機能を深めようとするがために相反する環境となってしまった。本来機能へ戻すためにもレファレンス用個室をぜひとも導入したい。図書館におけるインフォームドコンセントやカウンセリングを行うカンファレンス室は、世間が狭い田舎ほど重要な役割を果たすとも思える。

学習室よりも気軽なおしゃべり部屋設置をメモリアルホール最重要検討課題として今後提案していきたい。

《寄稿》 小さな学校図書館 ～総合学科・清水高校の場合～

北海道清水高等学校 高橋 理奈 さん

総合学科になってはや 10 年、課題研究をはじめ様々な選択教科やあらゆる教育課程の展開の中で、本校図書館は日常的に活用されてきました。生徒や教職員にとって本校図書館の存在はとても身近で、「図書館に行けば何かある！」といわれる事は学校司書としては嬉しい限りであります。

この夏、全国 SLA 研究大会が福島県郡山市で開催され『学校司書はどのような活動をするか』というテーマで発表させていただきました。道内総合学科の先駆者として、学校図書館がどのように教育課程の展開に寄与するのかを「課題研究」の授業を中心に実践報告致しました。

本校の「課題研究」は 3 年次生必修科目で、各個人それぞれがテーマ設定をします。私は例年 160 名分のテーマを把握し、ひとりひとりの顔を思い浮かべながら、個々の研究がより豊かな成果を生む事が出来るよう、それら全てに必要な資料を揃えます。もちろん、自校の資料だけで支援する事は不可能ですので、公共図書館のお世話になる事が多々あります。お陰で、手ぶらのまま生徒を帰す事がほとんどありません。本当に公共図書館（清水町・道立の…）さんには心から感謝しております。

学習指導要領では「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用に努める事」と運営上基本的位置づけがなされています。つまり、学校図書館が教育課程に踏み込んで全ての利用者に平等に支援する事、学校司書が求められる全ての事柄に確実に応え授業を支援する事はもはや当たり前の姿と捉えなくてははいけません。

本校図書館に於いては、ユネスコの「学校図書館宣言」（1999 年 11 月批准）の中に「～学校図書館は児童生徒が責任ある市民として生活できるように、生涯学習の技能を育成し…」と明記されているのを受け、この基本理念に基づいて教育活動を行っています。教育現場ですから、我々には人を育てる使命があります。社会に出たとき良き利用者、良き生涯学習者として豊かな生活を送る事が出来る人の育成に取り組んでいます。

「未来の世界を探求する人々は地図を持たない旅行者である。地図は探求の結果として出来るもの。目的地は何処にあるのかわからない。目の前にあるのは先人がある所まで切り開いた道だけである」※…うろ覚えですが確か、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士のお言葉であったはず。私にとって、まさにこの言葉は「課題研究」そのものである様に思うのです。道なき道を自分の力で切り開き、光を目指します。やがて実践力、問題解決能力を培い「課題研究」が出来上がるのです…。

この先、未知の世界に向け探究する全ての生徒が、彷徨することなく人生を送る為の地図づくりを全身全霊で応援したい。

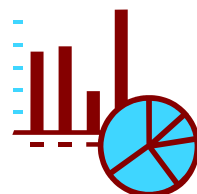
編集者注：このことばは、湯川秀樹氏の自伝『旅人 ある物理学者の回想』（朝日新聞社 1958 年刊、角川書店 1960 年刊 文庫）に記されたものです。

Librarian's Box (しよばこ) 【14】

統計情報をウェブ・サイトで得る

統計の調べ方については、国立国会図書館のHPに「統計資料レファレンス・ガイド」※として、日本語で記述された、統計検索ツール（書誌、索引、便覧等。原則的に統計数値自体は掲載されていない）あるいは統計書（統計数値が掲載されている）を分野別に紹介されていますが、インターネットからも実際の数値にたどり着ける場合が多くなりました。最新のデータを得るには冊子よりも有効なケースもあります。前号に引き続いてウェブ・サイト情報ですが、主なサイトをリンク集とあわせて紹介します。

- **統計データ・ポータルサイト ～政府統計の総合窓口～**（総務省統計局） <http://portal.stat.go.jp/>
総務省統計局が管理・運営する政府統計全体をカバーしているHP。「統計で見る日本のすがた」「府省等統計サイトマップ」「統計データへのガイド」のほか、フリーワードで統計の検索が可能
- **総務省統計局・政策統括官（統計基準担当）・統計研修所** <http://www.stat.go.jp/>
トップページには統計データ、最新の主な指標、新着情報などが並んでいます。統計データでは『日本統計年鑑』『日本の統計』『世界の統計』『日本統計月報』などの最新の公表資料を見ることができます。
- **都道府県等〔統計情報リンク〕**（総務省統計局） <http://www.stat.go.jp/info/link/2.htm>
各都道府県の統計課、統計情報、データベースへのリンク集
- **インターネット提供の民間統計集**（全国統計協会連合会） <http://www.nafsa.or.jp/home/0801.htm>
『民間統計ガイド』から抜粋したもので、業種別に分類されています。統計作成団体のURL、統計調査の名称がわかるリンク集
- **統計リンク集**（愛媛大学法文学部総合政策学科佐藤研究室） <http://greenwood.cpm.ehime-u.ac.jp/sato/link/>
同研究室作成のリンク集。官庁、政府関係機関、地方公共団体、企業、民間団体が作成する統計が主題別にリンクされています。
- **国立社会保障・人口問題研究所** <http://www.ipss.go.jp/>
将来推計人口、全国人口移動調査、全国世帯動態調査など関係の統計データを掲載
- **厚生統計協会** <http://www.hws-kyokai.or.jp/>
月刊誌『厚生の指標』に掲載の統計データを閲覧・ダウンロードできます。
- **交通事故総合分析センター ITARDA** <http://www.itarda.or.jp/>
交通事故統計やその分析結果などを掲載
- **労働政策研究・研修機構** <http://www.jil.go.jp/>
労働統計データ検索システム（毎月勤労統計調査及び賃金構造基本統計調査が中心）、主要労働統計指標、データブック国際労働比較などを掲載
- **MC一統計 統計データ提供サービス**（マーケティングセンター）
<https://www.mc-stat.com/stat/free/PCA51111.asp>
会員向け有料サイトですが、統計でみる地域の特徴、経済の動き、最新の経済動向などの一部のデータを無料で見ることができます。
- **帝国書院ホームページ** <http://www.teikokushoin.co.jp/index.html>
「一般の方のページ」から、都道府県調べ、国調べ、地理・歴史・公民に分けられた統計資料を掲載。すばやく各種の基本データにたどり着くことができます。
- **統計調査検索のページ**〔北海道企画振興部地域振興・計画局統計課〕
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sk/tuk/60kensaku/kensaku>
指定統計調査の北海道分へ調査別・分野別で検索できます。



※ **統計資料レファレンス・ガイド**（国立国会図書館） <http://www.ndl.go.jp/>
トップページ > 資料の検索 > 統計資料レファレンス・ガイド

課員のつぶやき ー日々の業務からの短信ー 【17】

「メールレファレンスが始まって、机上の野望が膨らむ……」

7月1日よりメールレファレンスの試行が始まりました。前号の『Do-Re』（28号）の付録で試行についてご案内しましたので、送付の後からポツポツとメールが来るようになりました。しかし、始まってまだ2ヵ月と少し。メールレファレンスを何度も利用している図書館（室）も出て来てはいますが、今のところは電話やFAXほど頻繁ではありません。担当者としては、少々微妙な気持ちです。

メールチェックした後、メールの調査申込は事項調査と所蔵調査に分けられ、課員による調査の順番が回るのを待ちます。調査が終了すると、回答を送ります。メールで受けたものは、基本的にメールで回答します。状況に応じて、FAX、電話なども使います。

メールを使うメリットは、照会する側では、文字数を気にせずに典拠や事前調査などの必要事項を詳しく書けることなどがあるのかと思います。回答する側も、書誌的事項などをコピー&ペーストで簡単に入力でき、インターネットで得た情報もURLをリンクすることですぐ見ることができると、便利な面があるのではないかと思います。今はまだ運用、バックアップなどで模索している最中です。

レファレンスの記録も従来のやり方を踏襲しています。しかし、照会も回答もせっかく二次利用しやすい電子媒体になっているので、レファレンスの記録やその後に關しても何か新しいことができないかな、とまっているのですが……。例えば『Do-Re』の原稿執筆やパスファインダー、HPなどへの活用、もしかするとレファレンス事例のデータベース化などなど、密かに野望（妄想）を膨らませています。ハードルは高そうですが……。

ようやく始まったばかりのメールレファレンスの試行ですが、参考調査課の業務にプラスとなるよう、試行錯誤を重ねていいものになっていければと、思っています。そのためには、実績と経験あるのみ！ 図書館（室）の方々の意見・感想などもいろいろ教えていただければと思います。可能な環境でしたら、メールレファレンスをお試しく下さい。

メールレファレンスのご案内(申込方法)

(詳細は当館HPの図書館向けのページ、または「Do-Re28号」付録をご覧ください。)

- 1 メール「件名」には「事項調査」か「所蔵（館）調査」かをご記入ください。
 - 2 次の記入事項を忘れなくご記入のうえ、お申込ください。
 - ①図書館（室）名、担当者
 - ②メールアドレス
 - ③電話番号
 - ④FAX番号
 - ⑤照会事項
 - ⑥典拠
 - ⑦調査済みの資料やインターネットサイト（URLも明記）、データベース等とその結果
 - ⑧照会済み機関（図書館）とその回答
- ※ 従来の「事項調査申込書」、「所蔵（館）調査申込書」を使用し、添付ファイルでの送信も可能です。
※ 添付資料があるときは、その旨を明記しメールもしくはFAXで送信してください。

一般事項（奉仕部参考調査課宛） → reference@library.pref.hokkaido.jp
北海道・旧樺太・千島列島に関すること（北方資料部調査運用課宛）
→ hoppo2@library.pref.hokkaido.jp

《報告》北海道医療大学総合図書館訪問レポート

～平紀子事務室長との情報交換を終えて～

2006年1月に北海道医療大学総合図書館と当別町教育委員会が提携し、図書館の状況を知りたいと思っていたところへ平紀子事務室長よりご案内いただき、当館から4名訪問することになりました。常に地域との連携について模索していたということで、積極的な意見が出されました。まずは、第一印象についてご報告します。

当館よりJRにて1時間ほどで到着。車ならもっと早く着くと思いますが、割と近いところにある印象です。

職員は12名。その一人の方にもまず、利用できるデータベースの一部について実際に検索しながらご紹介いただきました。学内外で利用できるデータベースは、『MEDCINE』（医学・生物学分野）、『PsycInfo』（心理学分野）、『Linguistics & Language Behavior Abstracts』（言語学分野）、『Sociofile』（社会福祉学分野）、『医学中央雑誌』（医学・生物学分野）、J-Dream 等です（詳しくは以下のHPをご覧ください）。

化学式や構造式からの検索ができ、自館未所蔵でも論文複写依頼がその画面上から簡単にできます。電子ジャーナルは約3500種で、プリントアウトが可能です。ファクシミリで文献を入手することもできる等、私たちの普段の情報提供方法とは効率性が違いました。検索方法等習得の必要性も感じました。

説明後、館内を見学。5階は、約2500タイトルの学術雑誌が置かれています。4階は、専門図書コーナーです。「国試対策コーナー」として問題集も配架されています。「いのちの図書コーナー」には、「生と死」にこだわらずに、一般書やヒーリングCD等が置かれています。3階は一般・参考図書が配架されています。文献情報検索用パソコンがあり、データベースの使い方も教えていただけるので初心者でも安心です。

選書については、いくつかの出版社の資料は全点購入しており、文学の分野も利用者の希望があれば原則購入している（相互貸借はあまりしない）そうです。また、当別町との提携に伴い、健康に関する本（『健康百科』『やさしい高血圧の自己管理』等）も揃え、新書等も充実しています。「司書が選んだ100冊」を公民館図書室へ貸出しており、大学図書館のイメージが変わりつつあります。学外の方にも開放されており、全道・東北各方面から医療従事者を中心として多くの登録があります。自館で回答不能な専門的なものについては、一度蔵書検索や電話等で問い合わせしてみるのも良いかもしれません。

生活習慣病等、健康や医療に関する情報ニーズが高まる中、当館への要求も、健康食品、闘病記から看護論文に必要な文献紹介等、高度なものも多く含まれています。情報をどこで入手したら良いかわからないというまだまだ多くの方が潜在的に存在していると思います。内容の新しさが要求される分野でもあり、利用者にあった支援体制を整えるためには、積極的な他機関とのつながりが必要です。

今回の情報交換を通して、双方の利用者への情報提供の役割を再確認し、医療系レファレンスや健康に関する資料についての購入リストの交換等、積極的に協力していくことを確認することができました。今後、どのような形で協力し、利用者へ関わっていくかを具体的に詰め、軌道にのせていきたいと思っています。

■ **北海道医療大学総合図書館**（薬学部 歯学部 看護福祉学部） 石狩郡当別町金沢町1757 TEL 0133-23-1211
貸出冊数3冊まで14日間（学外の方）*JR札幌駅から医療大学前620円、所要時間約50分。

札幌あいの里分館（心理科学部） 札幌市北区あいの里2条5丁目 TEL 011-778-9095

貸出冊数5冊まで14日間（学外の方）

ホームページアドレス <http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~library/>

北海道の図書館の課題 1 「相互貸借」

相互貸借については、本誌 No.19(通巻 23 号)で[特集]として取り上げました。

その中で、「何を自館で揃え、何を道立図書館へ求め、何を他館から借受けるか」について、それぞれの図書館が考えるきっかけになれば…」と記しましたが、現実には様々な課題があります。

恵庭市立図書館では、HPに「相互貸借希望図書館の方はご覧ください」という形で、「恵庭市立図書館相互貸借条件」を掲載しています。(10 ページ参照)

この度内容の一部を改訂しました。このことは、全道の市町村にお知らせするだけでなく、各々の図書館(室)が、相互貸借についてさらに一歩踏み込んで考えていただくためのきっかけになるものにとらえ、急遽、恵庭市立図書館の担当者に執筆を依頼しご協力いただきました。

各図書館は、それぞれ「借りる側」「貸出す側」の立場であり、お互いを理解しようと努力していますが、実際の業務の流れなどは理解し難い部分があります。

また、Web OPACによる所蔵館の確認が容易にでき、FAXによる申し込みが主となった現状では、それぞれの「思い」も伝わりにくくなりました。

このような状況から、当館においても所蔵館調査で他館を紹介する件数も激減し、市町村間の相互貸借の状況を把握することが困難になりました。やはり当館が中心となり各館の担当者同士が情報を交換し合う「場」を設定する必要を強く感じます。財政的に余裕のある図書館などありません。今まで築き上げてきた道内の図書館活動を後退させないためにも、今、積極的に、そしてざっくばらんに議論するときです。

今回の記事をお読みになったご感想・ご意見を是非お寄せいただきたいと思います。
もちろん当館に対するご意見も歓迎します。

相互貸借について思うこと

恵庭市立図書館 大林 泰子 さん

相互貸借担当になって

相互貸借の担当に…という業務分掌の打ち合わせがあった時、Web OPAC の公開とともに、相互貸借の業務が増加していた時だったので、「大変だぞ」とは認識していましたが、これほど大きな壁にぶつかるとは思っていませんでした。

当館の現状を抱えている悩みとともに記しますが、他の図書館では、どのように対応しているのでしょうか。

リクエスト対応と相互貸借

当館における利用者からのリクエスト対応は、『Do-Re23 号』の特集「相互貸借とリクエストを考えてみる」に掲載された旭川市中央図書館とほぼ同じで、「原則、買える資料は買う」としています。そして、この「原則」の買えない資料には、絶版で入手が困難な資料の他、予算上購入が難しいもの、蔵書構成上購入を避けたいものなどが含まれます。

幸い恵庭市は、札幌広域圏組合（以下「広域圏組合」）により、量・質ともに蔵書が豊富な札幌市、江別市、千歳市、北広島市、石狩市、当別町とネットワークが組み立てられており、これによる週2回の配送システムで、相互貸借による利用者への資料提供のほとんどを補うことができます。梱包も他の宅配等によるものと比較して簡易で、また配送費用は広域圏組合が負担しています。広域圏組合では、決まったルールとマナーにのっとり、通常の相互貸借規程よりも融通を利かし、本を流通させています。

一方、広域圏組合以外からの相互貸借の貸出し申し込みは、Web OPAC の公開により急速に増加しました。さらに、北海道大学の横断検索システム Dopac や道立図書館の横断検索システムが公開されてからは、便利になった分、相互貸借業務の負担も増えたように感じます。（考えすぎなのかもしれないのですが、どうも当館の OPAC は横断検索システムにおいてヒットする順が早いようなのです。）

また、市内の学校図書館整備に伴い、連携協力による資料の貸出しも始めました。

他市町村からの相互貸借の申し込みの増加、学校からの貸出し依頼・・・追い討ちをかけるように、年々減少する資料購入費・・・。図書館に直接借りに来た一般利用者への資料提供に不安を覚えはじめました。

決断

現在、相互貸借の担当は5名です。もちろん他の業務もこなしながらです。この他、梱包作業を他の職員にも手伝ってもらっています。昨年春までは実質2名で業務をこなしていましたが、あまりにも担当の負担が大きかったため、作業内容の見直しと共に担当者を増員しました。

その作業内容の見直しの際、問題に上がったのが、相互貸借の貸出しでした。

広域圏組合以外の貸出し冊数の多さ、また貸出しする資料の分野。改めて見直してみると、資料購入費減少の中、当館の一般利用者へのサービス低下につながっていると感じました。しかし、貸出しを申し込んできている図書館だって、なんとか利用者に資料提供をしたいと願ってのことだし、できれば貸出しをしたい。

相互貸借をとるか、一般の利用者をとるか・・・。やはり、市の図書館として市民へのサービスを優先しました。

問題の共有化

蔵書の豊富な図書館に貸出しの依頼が集中することは、否めません。ただ、申し込みをする館と受ける館とでは、温度差が生じてきているように思います。決して、意地悪で申し込みを断っているわけではないのです。梱包に関わる業務量、配送費用など、余裕がある中で貸出ししているのではないということが、相手館にどれくらい伝わっているのだろうか。

極論かもしれませんが、「貸出し館の相互貸借規程や情報を確認する」「リクエスト資料を購入するか、相互貸借で他館から借り受けるか」という判断。これは、相互貸借における問題にとどまらず、各図書館の選書や蔵書構成にもつながるものであり、図書館職員の力量、司書の専門性を問われる課題であると思います。現在、私自身も手探りの中で相互貸借を担当しています。配送費用の問題、そしてなんととっても、相互貸借におけるルールとマナー。共通認識が従来のもものでは、対応しきれなくなっているのではないのでしょうか。

資料購入費減少の中、利用者からの多種多様なリクエストになんとか応えようとしているのは、どの図書館も同じだと思います。近隣地域の図書館ネットワークを考え、図書館の規模にとらわれずに意見交換や勉強会を重ね、相互貸借に関する共有認識を明文化する必要があるのではないのでしょうか。



恵庭市立図書館相互貸借条件

・当館に相互貸借を希望される図書館（室）の方はご覧ください。

■貸出対象館の範囲の限定	限定はありませんが、現在延滞のある館には貸出しません。
■貸出資料の範囲	以下のものを除きます。 1.北海道立図書館で所蔵している資料 2.発行または受入より6ヶ月以内の新刊資料 3.発行または受入より1年以内のヤングアダルト資料(コバルト文庫・電撃文庫等) 4.貸出禁止資料(参考図書・貴重本・雑誌最新号) 5.予約が入っている資料 6.人気が高い資料(月1回以上の貸出実績がある資料) 7.長期延滞や蔵書不明の資料 8.容易に入手できる資料 9.その他館長が特に指定する資料
■貸出点数限定の有無	ありません。
■貸出期間	原則として30日間(延期はできません。)
■貸出申込方法	書誌的事項と所蔵館、送付先などを記入して、FAXで本館に送付してください。 あて先：0123-39-6173
■様式の有無	当館の様式はありません。 北海道図書館振興協議会相互貸借規程に準じます。
■公印の要不要	不要です。
■申込み受付時間	原則として、土日・祝日を除く開館時間内にFAXしてください。
■送料負担	相互負担です。(送る側が送料負担します。)
■返却時の送付条件	梱包の表に相互貸借資料と明記してください。
■貸出資料の借受館側の取扱い条件	借受館の規定にそってください。ただし、当館から利用上の条件を示しているときは、その条件に従って利用してください。
■貸出申込み対応窓口	奉仕スタッフ 相互貸借担当 TEL 0123-37-2181 FAX 0123-39-6173
■その他特記事項等	特別整理期間内は取り扱いしません。 札幌広域圏図書館情報ネットワーク事業に参加している館は貸出資料の範囲も含み、ネットワーク事業事務要領に準じてください。

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2006年6月～9月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページ の順に記載

(参考: 国立国会図書館NDL OPAC 雑誌記事索引)

- 1 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ 9) 中央省庁の情報や文献を調べる 大串夏身 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (72) [2006.8・9] 16～19p
- 2 三多摩レファレンス探検隊の実践レファレンス通信講座 -スクーリング- ご報告 植村圭子 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (72) [2006.8・9] 60p
- 3 地域産業振興策の一翼を担う機関として注目されるビジネス支援図書館 高橋晴美 『SERI トピックス』 静岡経済研究所 / 静岡経済研究所 [編] (934) [2006.8.15] 1～5p
- 4 FOCUS 地域振興 ビジネス支援に動き出した公立図書館 資料費減などで課題解決型を目指す 行政や経済団体との連携で講座や相談会 -ネットワークを整備して地域の情報拠点に 『日経グローバル』 日経産業消費研究所 / 日経産業消費研究所 編 (56) [2006.7.17] 24～27p
- 5 「レファレンス」をめぐって -省令科目内の位置づけの再検討を中心に (〔日本図書館研究会〕第47回研究大会グループ研究発表) 前川和子; 志保田務; 中村恵信 『図書館界』 日本図書館研究会 / 日本図書館研究会 [編] 58(2) (通号 329) [2006.7] 90～98p
- 6 科目「情報検索演習」の調査とその検討・試行 (〔日本図書館研究会〕第47回研究大会グループ研究発表) 藤間真 『図書館界』 日本図書館研究会 / 日本図書館研究会 [編] 58(2) (通号 329) [2006.7] 120～122p
- 7 企画広報研究分科会とパスファインダーバンク -パスファインダーバンクの構想から運営まで (特集図書館サイトに付加価値を) 私立大学図書館協会企画広報研究分科会 『専門図書館』 専門図書館協議会 / 会員サービス委員会 編 (通号 218) [2006.7] 21～27p
- 8 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ 8) 特定テーマに関する文献を調べる(2) 一般図書 大串夏身 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (71) [2006.6・7] 14～17p
- 9 こんな講座がはじまります -レファレンス・インタビューとコーチング 山田万知代 『図書館の学校』 図書館の学校 / 図書館の学校 編 (71) [2006.6・7] 60～62p
- 10 レファレンスサービスにおける資料組織の重要性について 後藤圭太 『資料組織化研究』 図書館資料組織化研究会 / 図書館資料組織化研究会 編 (通号 52) [2006.6] 39～46p
- 11 看護文献の動向-最新看護索引のキーワード調査 (特集 はじめの一步 私はこうしています-基礎的な図書館員の仕事(3)) 阿部由美子 『ほすびたるらいぶらりあん』 日本病院ライブラリー協会 / 日本病院ライブラリー協会 編 31(2) (通号 109) [2006.6] 107～115p
- 12 事例報告 医学図書館による正規カリキュラムでの情報検索教育の経験 諏訪部直子 『医学図書館』 日本医学図書館協会 53(2) [2006.6] 143～148p

NEWS

1 札幌市立月寒中学校の三上久代さんが本を出版

本誌 No.22(通巻 26 号)に「レファレンス・サービス」という言葉の思い出」を寄稿していただき、また第 15 回読書指導体験記コンクールで優秀賞を受賞された札幌市立月寒中学校司書教諭三上久代さんの著書『学校図書館における新聞の活用』(全国学校図書館協議会 2006.7)が出版されました。

学校図書館の基本的な仕事の意義や具体的な手順について初任者でもすぐ理解し実践できるようにまとめられた『学校図書館入門シリーズ』の第 15 巻目の出版で、学校図書館での新聞の活用、新聞を使った授業、新聞を活用する授業の実践などを紹介しています。

2 平成 18 年度第 2 回道民カレッジ連携講座 - 能力開発コース - 開催

7 月 21 日(金)に、一般の方を対象として「インターネット活用術－図書館員が選んだおすすめサイト」という講座を当課で開催しました。

今回は初めて道立教育研究所附属情報処理センターをお借りしての開催でした。パソコン研修用につくられた研修室で、参加者一人一人がパソコンを利用することができ、今までよりも規模の大きく分かりやすい講座を行うことができました。「検索エンジンを上手に使う方法」と「日常生活に役立つサイトの紹介」という内容で、参加していただいた 17 名の方々は楽しみながら学んでいました。

3 夏休みの「書庫ツアー」大好評

8 月 3 日(木)に今年度第 2 回目の書庫ツアーを行い、31 人もの参加をいただきました。夏休み期間中ということもあり、親子連れの参加者も目立ちました。

ツアーは 1 時間ほどでしたが、参加者は興味深く書庫を見学し、担当者の説明に耳を傾けていました。ツアー後も図書館やレファレンスについて熱心な質問が出され、参考調査課の業務などを中心に説明しました。

「書庫ツアー」は 11 月 3 日(金)文化の日にも開催します。

4 第 48 回北海道図書館大会開催

9 月 5 日(火)～6 日(水)、ホテルライフオー札幌で「地域を支える情報拠点をめざして」をテーマとして、第 48 回北海道図書館大会が開催されました。

基調講演には慶應義塾大学から糸賀雅児教授を招き、パスファインダーを作成するなどして資料の付加価値を高め、従来の受け身の姿勢から情報発信型の図書館への転換を目指すという話があり、これからの図書館像について議論が行われ、今大会も無事終了しました。

5 ミニ利用講座・開催中!

今年度、当課の新たな事業として 5 月より毎月第 3 火曜日 17 時から一般利用者向けに「ミニ利用講座」を開催しています。普段はなかなか詳しく説明する機会の無い、当館の目録の解説と検索機の使い方を 20 分ほどで説明するもので、毎回、資料検索に関心のある方が集まり、熱心に説明を聞いたり質問をして、検索方法の理解を深めていただいています。今後も来年の 3 月まで開催予定があり、日程などについては当館の HP からご確認できます。

北海道立図書館 <http://www.library.pref.hokkaido.jp/>

6 市町村図書館職員レファレンス体験研修・開催中！

当課では今年度も市町村職員向けのレファレンス体験研修(以下「レファ研」)を行っています。当研修は平成13年度に開始以来すでにのべ80名以上の方が受講されました。最近、インターネットを利用した調査の研修を求められることが多いですが、やはり基本としてレファレンス・インタビューの研修を希望してくるところも多いです。毎回60分強の時間を使って、インタビューの基本説明と例題を利用した実践を通して利用者が必要としている事柄を尋ねる技術を磨きます。研修を行う当課としても、この時間の対話を通じ、普段の自分の接遇を確認することができ役立っています。

7 国会図書館でレファレンス協同データベース事業新規参加の受付開始

平成15年から始められている国立国会図書館のレファレンス協同データベース事業ですが、今年の9月1日(金)から、新規の参加申し込みの受付を開始しています。これは、全国の図書館が協力して、レファレンスサービスの記録や、情報の調べ方の案内などをデータベース化し、インターネットを通じて提供する事業で、公共、大学、専門図書館など、既に400館以上が参加し、レファレンス事例のデータも22,000件以上になっています。参加館はデータ登録の他、参加館のみに公開しているデータを検索利用することができます。詳しくは国会図書館のHPでご確認ください。

国会図書館レファレンス協同データベース事業

http://www.ndl.go.jp/jp/library/collabo-ref_02.html

8 先生方の研修講座を積極的に受入れ

当館では、道立教育研究所や石狩教育局主催の小中高等学校の先生方を対象とした様々な研修講座について、積極的に受入れし協力しています。今年度当課で担当した主なものには、「10年経験者研修(選択研修)」でのレファレンス実習と「総合的な学習の時間コーディネーター養成講座」での講義“総合的な学習の時間で公共図書館を上手に使おう”(講師:宮本)があります。

9 「都立図書館改革の具体的方策」公表

東京都教育委員会は、8月24日付けで標記の方策を57ページの冊子として公表しました。この方策は、改革の「基本的な考え方」、「具体的な取組み」、「基盤づくり」の3部で構成され、特に「具体的な取組み」では、1.都立図書館サービスの新たな展開 2.利便性の高いサービスの実施 3.インターネットを活用した情報サービスの推進 4.都の行政施策との連携 5.区市町村立図書館との連携・協力の章立てで詳細に述べられています。次のアドレスで全文ダウンロード可能です。是非御覧ください。

都立図書館改革の具体的方策について

<http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/press/pr060824a.htm>

10 帯広市図書館が広報誌2種を創刊

9月上旬、帯広市図書館のHPに『よむよむ☆タイムズ』と『よむ☆としょ』の2種の広報誌がアップされました。前者では、レファレンス・サービスの特集し、後者では、テーマ別にオススメ本が紹介されています。現物は、市内公共施設や駅などに配置して広く図書館利用を呼びかけるそうです。皆さんどうぞご覧ください。

帯広市図書館HP <http://www.lib-obihiro.jp/>

編集後記

◆ 今回のニュース原稿は風邪で体調を崩している中、課の皆からの情報提供があっ
てなんとか作成することができました。ここで感謝の意を伝えたいと思います。い
つもはもっと早めに体調が回復するのですが、今年の記録的な猛暑には勝てなかつ
たようです。皆様もどうか健康には気をつけてお過ごしください。(T)

◇ レファレンス体験研修や図書館実習など、「教える」側に立つ機会が多いこの頃。
むろん、まだまだ経験も知識も未熟のため、準備の度に「無知の知」を痛感して
ます。毎日が勉強そして、野望の日々。(や)

◆ 先日、利用者講座で検索エンジンの使い方の講義をした際の質問で、「良い医者
を探すときはどう検索したらよいか？」という質問を受けました。また、自分が参
加した介護講座でも、具体的で細かな質問が多く、実技の時間がなくなるほどでし
た。利用者一人一人への細やかな情報提供が必要であることを、ひしひしと感じ
ました。(N)

◇ 暑くて長かった夏もようやく終わりました。先日の北海道図書館大会での糸賀先
生の講演は、「課題解決型」「情報発信」今後の図書館のあり方について、とても興
味深いお話でした。団塊の世代の問題、裁判員制度については、図書館にも少なか
らず影響があるはず。もっといろいろな視点で捉えていかねばと思いました。(え)

◆ 最近是一般の方からの直接の照会が増えてきているように感じます。図書館のレ
ファレンスサービス(調べもの相談)が少しずつ一般市民へ浸透してきているので
しょうか。

さて、先日の北海道図書館大会、都立図書館改革の具体的方策(今号 News で
紹介)で共通して述べられたことに「待ち」の姿勢から「積極的な情報発信」へ
があります。もはや私たちは図書館の中だけにとどまって仕事をしている場合では
ありません。HP を活用した様々な情報発信、地域の関連施設や学校などとの連携
など積極的に“外”に出て行く必要があります。当課も活動する参考調査課として、
市町村のお役に立てるよう頑張ります!!(宮)

◇ 暑い夏もようやく終わり、過ごしやすい気候となりました。

今号も、市町村図書館、学校図書館の皆様からのご寄稿によって充実した内容
となりました。今後ともご協力をお願いします。(S)



Do - Re(どうれ) の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス” の
略から名付けました。

しかしながら

“どれどれレファレンス” からの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAI DO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 25(通巻29号)

発行年月日 平成18年9月27日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906

<http://www.library.pref.hokkaido.jp>
